

平成29年9月14日

国立市議会議長 大和 祥郎 様

提出者 上村 和子

〃 重松 朋宏

〃 尾張 美也子

議案の提出について

議員提出第 10 号議案

**朝鮮人犠牲者追悼式典への追悼文送付取りやめに
抗議するとともに、早急な復活を求める意見書(案)**

上記の議案を次のとおり、地方自治法第99条及び会議規則第13条の規定により提出します。

朝鮮人犠牲者追悼式典への追悼文送付取りやめに抗議するとともに、早急な復活を求める意見書(案)

小池都知事はことし9月1日に東京都立横網町公園で行われた「朝鮮人犠牲者追悼式典」への都知事としての追悼文送付を取りやめました。

この式典は関東大震災直後に「朝鮮人が暴動を起こした」などのデマが広がり、自警団などの手で多数の朝鮮人や中国人が虐殺されたことを悼み1982年から毎年開かれており、歴代の都知事も毎年追悼文を送付してきました。

言うまでもなく、この虐殺事件は関東大震災という大災害を辛くも生き延びた人たちの中で起きたジェノサイドであり、災害死とは全く違い、災害後のパニックの中で日常にあった差別意識から誘発された流言飛語により引き起こされた恐るべき殺りくです。この違いを一緒にすることはあってはなりません。式典は関東大震災直後に起きた朝鮮人虐殺の犠牲者を悼むとともに、二度とこのような歴史を繰り返さないという誓いを刻むもので、人権の視点で重要な式典です。

小池都知事は取りやめたことに対する認識を記者に問われて、虐殺は「歴史家がひもとくもの」と事実そのものを明確に認めなかったことは重大で看過できません。

東欧諸国との和解や東西ドイツの統一に貢献したワイツゼッカー元大統領は1985年5月8日のドイツの終戦40年の記念日に「どの国も戦争や暴力に罪深い間違いを犯した歴史からは自由になれない。過去は変えられない。過去に目を閉ざす者は現在も見えなくなる。非人間的な行いを記憶しない者は、また同じことを繰り返す恐れがある。和解は記憶なしではあり得ないことを理解すべきだ」と演説し憎しみや敵意に陥らず共生することを学び、自由をとうとび、平和のために努力しようと呼びかけました。今回の小池都知事の行動は、まさに「過去に目をつぶり、同じことを繰り返す恐れがある」危険な行いであります。

新大久保での「朝鮮人は殺せ」とプラカードに書いたヘイトデモ、熊本の地震の後でも関東大震災の時のデマをまねてか「朝鮮人が井戸に毒を入れた」とのデマがインターネット上に流れました。今回もインターネット上では「当たり前だ！震災に乗じて、朝鮮人が強盗・殺人・放火を行ったことは全くの事実」などの書き込みがインターネット上にあふれました。今回の都知事の行動は、犠牲者を再度おとしめ、韓国、朝鮮人を敵視する人たちをあおることになってしまいました。

東京都には2015年10月段階で44万人を越す外国人都民が暮らしています。その60%が朝鮮・韓国・中国籍の人たちであり、その数は全国一です。一方、東京直下型地震や南海トラフなどの巨大地震への危機が現実的なものとなり、不安も高まっています。さらに東アジアの緊張も高まっています。その中でオリンピック開催都市東京都のトップとしての都知事には人権に基づく確かな平和感覚が求められます。ヘイトクライムを未然に防ぎ、差別扇動を起こさせず、あらゆる国の人たちが安心して暮らして、集える平和的な環境を全力で整える責務があります。

この責務に基づき、多文化共生国際都市、東京都の都知事として、関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典への追悼文送付を早急に復活することを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出するものである。

平成29年9月 日

東京都国立市議会

提出先 東京都知事